

2017

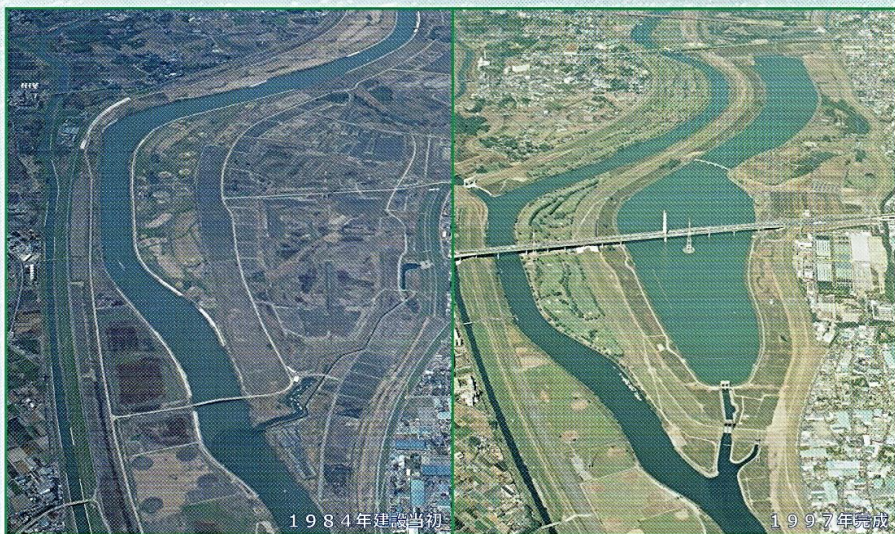
# 荒川上流

## 事業概要

国土交通省関東地方整備局 荒川上流河川事務所

荒川上流部改修から

**100**年  
1918-2018



1984年建設当初

1997年完成

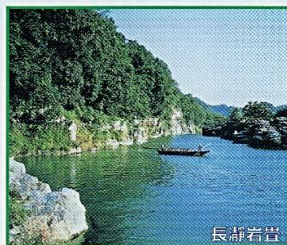
2017年は、荒川貯水池（彩湖）の完成から20年



出水時の荒川貯水池（彩湖）



滝沢ダム



長瀬岩



荒川大橋付近



荒川の源流



ARAKAWA



# 水害のない安全な地域づくり・流域

## 荒川の歴史

約1000年前の荒川の川筋は寄居付近から下流は今と大きく異なり、利根川の支川の一つとして東京湾に注いでいました。

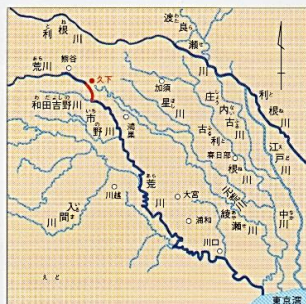
名前のいわれは「荒れる川」であり、寄居付近を扇頂とした扇状地を下り、熊谷より下流部でしばしば流路を変え、農耕地では水害を起こしてきました。

### 変遷前



荒川は、東京湾に流れ込んでいた利根川の支川で、現在の元荒川筋を流れていました。

### 変遷後



今から約380年前の江戸時代に、熊谷市久下あたりで新しい河道を開き、和田吉野川と合わせ、現在のように入間川を合流して東京湾に注ぎ込むようになったのです。河口部の流れは、現在の隅田川筋です。

### 【久下の開削】

寛永6(1629)年、徳川家康の命を受けた関東代官頭伊奈氏を中心として荒川と利根川を分離するために熊谷市内の久下で荒川(現:元荒川)を締め切り、堤防を築いて新川を開削し、荒川の本流を当時の入間川の支川である和田吉野川へとつなぎました。この工事は「荒川の西遷」とも呼ばれています。これにより埼玉県東部の新田開発や荒川を利用した舟運が進み、舟運によって集まる物資により江戸は世界に誇る100万都市に成長しました。

その一方で、新たな水を受け入れることになった和田吉野川・市野川の周辺では水害が増え、

堤防や水塚などがつくられました。関東平野の治水は、代々関東郡代を世襲した伊奈一族が行い、長男の忠政、次男の忠治へと受け継がれています。

## 荒川の水害

明治43(1910)年の豪雨による洪水で荒川の堤防が決壊し、利根川の洪水と合わさって埼玉及び東京の低地は壊滅的な被害を受けました。また、昭和22(1947)年カスリーン台風による洪水でも各所で堤防が決壊し、利根川の堤防決壊と合わせて埼玉、東京の低地に甚大な被害をもたらしました。



明治43年洪水(現川越市)



カスリーン台風時の浸水状況(現川越市)

### 【カスリーン台風】

「カスリーン台風」と呼ばれた昭和22(1947)年9月15日の台風では、現在の鴻巣市で堤防が65mに渡り決壊したのに続き、熊谷市久下地先でも100mにわたり堤防が決壊しました。荒川から溢れ出した濁流は中小河川を次々と破堤に追いやりながら元荒川沿いに南下し、17日には利根川の決壊による濁流と合流して更に被害を拡大させました。最初の堤防決壊から5日目を数える20日午後には、多くの市町村を飲み込んだ濁流は東京湾にまで達しました。埼玉県内の被害は死者、行方不明者101名、全壊・半壊・流出家屋は3,237戸、床上・床下浸水は79,502戸となります。

今年、平成29(2017)年は、カスリーン台風から70年にあたります。



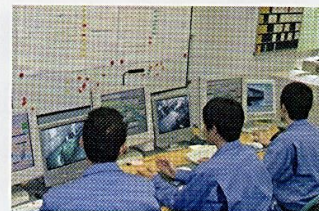
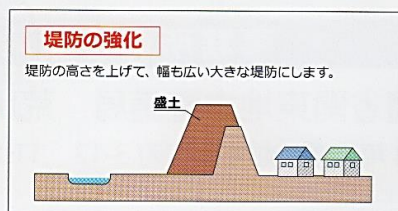
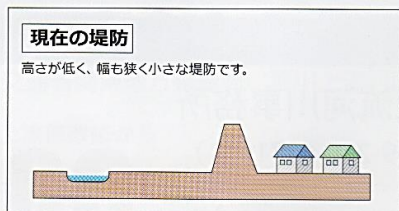
水害の恐ろしさを今に伝える決壊地点の石碑(熊谷市)



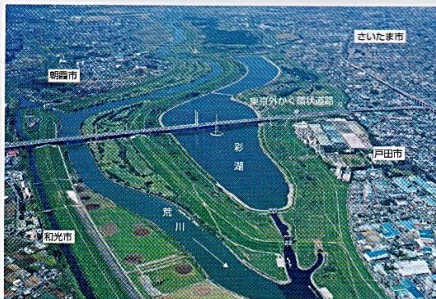
# 全体の治水安全度の向上を目指して

## 安全な地域づくりのために

水害のない流域づくりを目指し堤防の整備や樋管の改築工事を行っています。また、洪水時には自治体、住民の方々が適切に水防活動や避難を実施できるよう、ITを活用した河川情報の収集・提供、水防警報の発令や排水機場（ポンプ場）等の適切な操作を行います。地震等で被災し、道路網での輸送が困難な時には荒川を利用した緊急用船着場や緊急用河川敷道路を活用し、復旧資機材の運搬を行います。



## 川の恵みを暮らしに活かすために



埼玉県民や東京都民の生活用水を安定的に確保するため、荒川貯水池（彩湖）を適正に管理しています。また、水資源の有効利用を図るため上流ダム群（二瀬ダム・浦山ダム・滝沢ダム）の効率的な運用（統合管理）を行っています。

## 人と自然との調和のために

荒川の自然環境を保全・再生するとともに、地域住民の方々が河川を快適に利用できる事を目指します。そのために、学識者や NPO、地域住民、関係行政機関等と連携して河川環境の整備と保全を行っています。

またビオトープ（生物の生息空間）を支川や周辺の地域を含めつなげることにより荒川流域全体の自然環境の保全を図ります。



## 荒川を安全で快適に利用するために

荒川上流河川維持管理計画に基づき、荒川を安全で安心して利用できるよう、河川管理施設の点検や機能の維持を行っています。

例えば、堤防の異常を把握するための除草や、洪水時に機能を発揮できるように水門・樋管等の施設を点検しています。また、水質の異常や不法投棄などの違法行為等を速やかに発見して対応するために河川の巡視を行っています。





## 地域連携

地域の方々と一緒に考え、より良い荒川を未来へ残すための取り組みを行っています。

### 荒川クリーン協議会

平成6年度より「荒川クリーン協議会」を設立し、地域の方々に参加頂き不法投棄の防止活動を実施しています。

### 出前講座

一般の方々の川に関する様々な情報や疑問に答えるための「出前講座」を開講しています。講座内容は事務所HPで確認できます。

### 武州・入間川プロジェクト

入間川流域における環境保全等の活動を行う住民団体等を支援します。

### 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

関係行政機関、地域住民、NPO、学識者等が参加し、自然環境の保全、再生、維持管理に取り組んでいます。

### あらかわ市民環境サポーター制度

荒川の貴重な自然である三ツ又沼ビオトープを大切に思い、共に守り育てる人を認定・登録し、協働で自然環境の保全に取り組んでいます。

### 地域活性化応援隊

荒川沿川の自治体や、NPO法人等が取り組む魅力ある「地域づくり」に対してアドバイス、支援を行う窓口を開設しています。

## 事務所のご案内

### 国土交通省関東地方整備局 荒川上流河川事務所

〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 3-12 TEL.049-246-6371(代)

<b>総務課</b> TEL.049-246-6371	全般に関すること
<b>経理課</b> TEL.049-246-6372	契約業務に関すること
<b>用地第一課</b> TEL.049-246-6373	用地取得に関すること
<b>用地第二課</b> TEL.049-246-6374	用地取得に関すること
<b>工務課</b> TEL.049-246-6359	河川工事全般に関すること
<b>品質確保課</b> TEL.049-246-6363	技術提案の審査・評価及び品質確保に関すること
<b>調査課</b> TEL.049-246-6360	河川の調査及び流水の管理に関すること
<b>計画課</b> TEL.049-241-0380	計画全般・広報及び地域連携に関すること
<b>河川環境課</b> TEL.049-220-0145	河川の環境に関すること
<b>管理課</b> TEL.049-246-6364	河川維持管理に関すること
<b>占用調整課</b> TEL.049-246-6358	河川占用の手続きに関すること
<b>防災情報課</b> TEL.049-246-6384	防災関係・洪水予報・電気通信施設に関すること
<b>施設管理課</b> TEL.049-256-7324	機械設備に関すること



JR線・東武東上線川越駅から徒歩20分

#### ホームページアドレス

<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/>



#### 携帯サイト

<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/i/>



#### 河川の情報は「川の防災情報」サイトへ

(PC版) <http://www.river.go.jp/>



(携帯版) <http://i.river.go.jp/>



(スマートフォン版) <http://www.river.go.jp/s/>



## 出張所のご案内

### 熊谷出張所

〒360-0026  
熊谷市大字久下 1631-5

### TEL.048-522-0612

荒川 花園大橋～太郎右衛門橋 (一部区間を除く)  
(管理延長 34.2km)

### 越辺川出張所

〒350-0047  
東松山市大字高坂 973-3

### TEL.0493-34-3129

都幾川 上用水堰の上流～越辺川合流部  
越辺川 今川橋よりやや下流～落合橋  
高麗川 五号堰よりやや下流～越辺川合流部  
(管理延長 28.2km)

### 入間川出張所

〒350-0811  
川越市大字小堤字八幡 154-2

### TEL.049-231-0458

入間川 関越～入間川橋～入間大橋  
越辺川 落合橋～入間川合流部  
小群川 東武東上線～小群川橋～越辺川合流部  
(管理延長 20.4km)

### 西浦和出張所

〒338-0837  
さいたま市桜区田島 8-17-1

### TEL.048-861-9129

荒川 太郎右衛門橋～笹目橋第一橋  
入間川 入間大橋～荒川合流部  
(管理延長 28.4km)



総管理延長 111.2km







# 関東地方整備局 荒川上流河川事務所

## 危機管理対策の推進

荒川河川敷を利用した緊急用河川敷道路の整備を行い活用を図ります。また沿川自治体や関係機関と連携し被害の最小化を図ります。

### 河川防災ステーション

洪水被害を最小限に食い止めるため、災害時の緊急復旧活動を行う上で必要な緊急用資材の備蓄、駐車場、ヘリポート等を配置し、迅速かつ円滑な復旧活動の拠点として整備します。

### 緊急用船着場、緊急用河川敷道路の活用

緊急用船着場と緊急用河川敷道路との連携を図り、大規模地震発生後に河川管理施設等の復旧資機材や救援物資等の運搬を行います。

### 危機管理対策・減災対策の推進

地震や洪水などの大規模な被害を軽減するため、地震・洪水を想定した訓練の実施や水防連絡会の開催により、沿川自治体や関係機関等と連携を強化します。

また、「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、大規模な氾濫に備えて、流域自治体等と連携し、円滑かつ迅速な避難、的確な水防活動及び円滑かつ迅速な排水等を実現する取り組みを進めていきます。



河川防災ステーション（洪水時）



緊急用船着場



減災対策協議会の様子

## 河川環境の整備と保全

荒川本川の広大な河川敷に残る豊かな自然と支川や周辺の地域を含めた「荒川エコロジカルネットワーク」を構築し、自然環境の保全と再生を図ります。

### 荒川太郎右衛門地区自然再生

荒川太郎右衛門地区（荒川右岸 50～54km 付近）において多様な生物が生育・生息・繁殖できる良好な自然環境を再生することを目的とし、学識者や NPO、地域住民、関係行政機関と話し合いながら自然再生事業を実施しています。今年度は、下池河畔林の保全・再生、管理用通路の整備及びモニタリング調査を実施します。



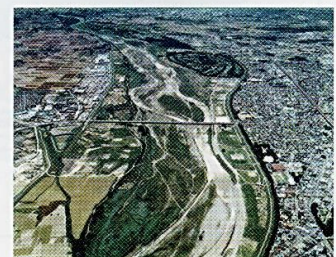
協議会の様子

## 生活用水等の確実な補給と水環境の改善

生活用水を安定的に確保するため、荒川貯水池（彩湖）の適正な維持管理、上流ダム群との統合管理を実施します。また、埼玉県・東京都と共同で「おいしい水」対策の共同調査を行います。

### ダム・貯水池の統合管理

荒川の上流部には二瀬ダム・浦山ダム・滝沢ダムが、下流部には荒川貯水池（彩湖）がありますが、気象条件や貯水状況などによっては、十分に水を供給出来ないことがあります。また、荒川は利根川からの導水も含めた水利用もなされています。そのため、導水や支川の流量、取水量等を一元的に把握し、水資源のより効率的な運用を図るよう、統合管理を行います。



濁水により河川に水が無くなった様子  
（荒川大橋付近）H8.6.19

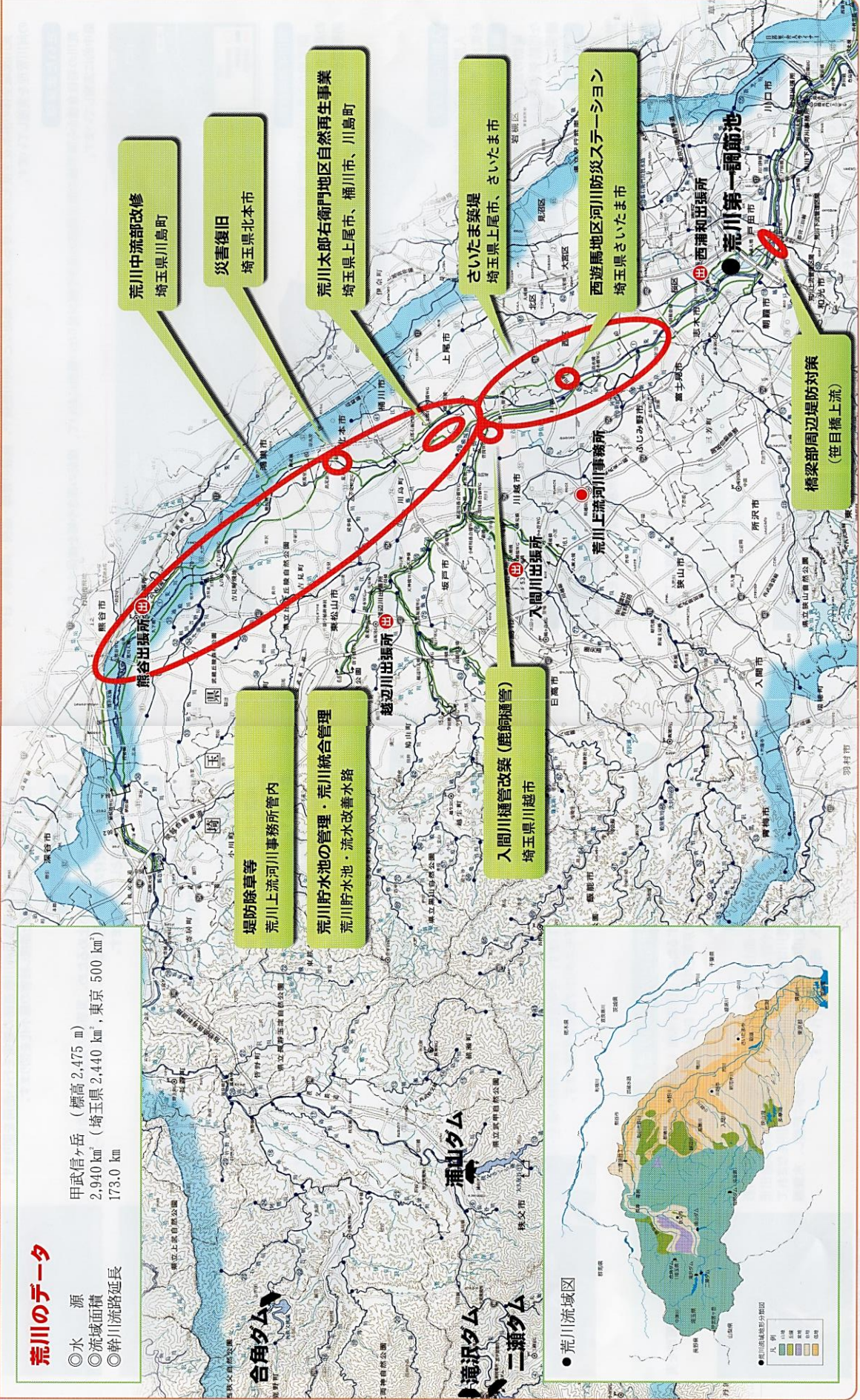


# 安全で快適な荒川へ向けて様々な事業を推進しています。

## 平成29年度 荒川上流河川事務所の主な事業箇所

### 荒川のデータ

- ◎水 源 甲武信ヶ岳 (標高 2,475 m)
- ◎流域面積 2,940 km<sup>2</sup> (埼玉県 2,440 km<sup>2</sup>, 東京 500 km<sup>2</sup>)
- ◎幹川流路延長 173.0 km



荒川中流部改修  
埼玉県川島町

災害復旧  
埼玉県北本市

荒川太郎右衛門地区自然再生事業  
埼玉県上尾市、桶川市、川島町

さいたま築堤  
埼玉県上尾市、さいたま市

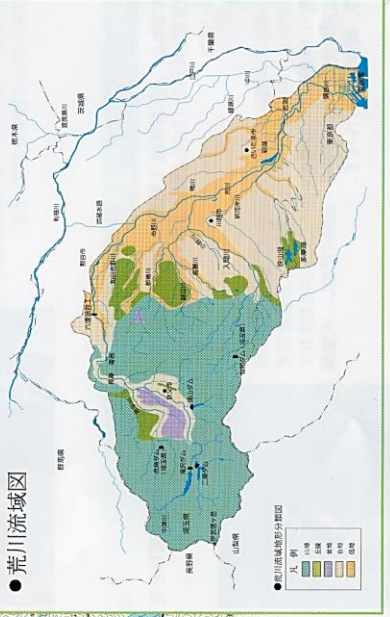
西遊馬地区河川防災ステーション  
埼玉県さいたま市

橋梁部周辺堤防対策  
(笹目橋上流)

堤防除草等  
荒川上流河川事務所管内

荒川貯水池の管理・荒川統合管理  
荒川貯水池・流水改善水路

入間川涵管改築(鹿飼涵管)  
埼玉県川越市



● 荒川流域図

● 川流量割合分布図



# 荒川上流部改修から100年 首都圏の発展に大きく貢献



荒川上流部改修から  
**100**年  
1918-2018

## 荒川上流部改修100周年(埼玉県・東京都)

- ▶ 荒川流域ではたびたび浸水被害が発生しており、江戸時代の頃より大囲堤築造や瀬替えなど治水事業がおこなわれてきた
- ▶ 明治後半から大正初期にかけて相次いで大洪水に見舞われたことにより、改修計画早期着手を願う声が高まり、その結果、帝国議会で大正7年より荒川上流部改修計画を着工することとなった
- ▶ その着工より100年、堤防改築や横堤新築、ダム・遊水池整備等の様々な事業を行うことで浸水被害を大きく減少させてきている

### 首都圏でたびたび浸水被害が発生 大正7年より荒川上流部改修が本格スタート



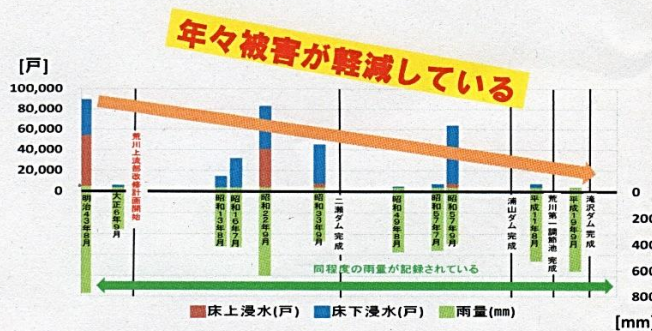
荒川改修工事(埼玉県さいたま市馬場付近)  
堤防工事と併せて実施が行われ、工事には気動機車や馬車・トラックを使用している様子が見える。写真は、大正10年頃。



荒川改修工事(埼玉県さいたま市馬場付近)  
気動機による工事の様子。工の運搬には3m3土運車が用いられ2.0~2.3台編成で運行された。

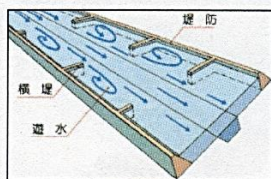
### 浸水被害が大幅に減少し、 人口増加に大きく貢献

#### 埼玉県部における洪水雨量と全壊流出浸水戸数の関係



#### 荒川上流部の100年間の治水事業

- 荒川上流部改修計画での治水事業 (1918年~1954年)



横堤の築堤

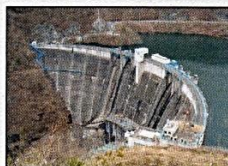
(川幅の広い河川敷を利用し、避水効果を高めている)



入間川合流点の瀬替え

(洪水時に荒川本川の水が入間川に逆流していたため、その影響の低減を図っている)

- 荒川上流部改修計画後の治水事業 (1954年~)



二瀬ダム

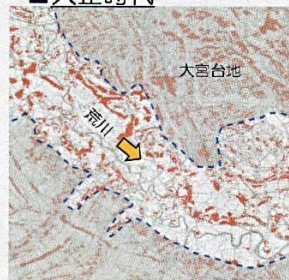


荒川第一調節池

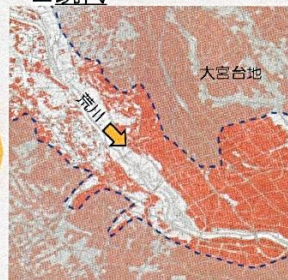
#### 荒川低地の市街化の進展状況

荒川改修による浸水被害低減により、  
人口増加や経済発展に大きく貢献しています。

#### ■大正時代



#### ■現代



市街化が  
進展

※雨量については、流域内の各観測所における総雨量の最大値とし、浸水被害については、東京都及び埼玉県全域の被害を示す

※雨量については、荒川上流域に位置する観測所の総雨量の最も高い地点の雨量を示す

出典: 「埼玉県気象百年」「水害統計調査」